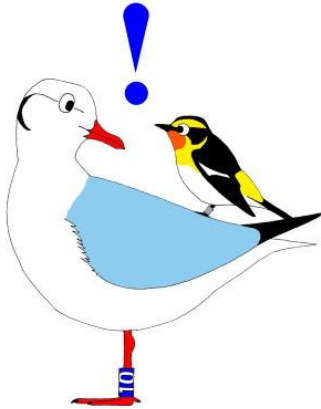


日本鳥類標識協会2022年オンライン大会  
2022年12月10日一般講演

# 鳥類標識調査グループ・関西 のブース展示報告



<http://larus.c.ooco.jp/BirdbandingKansai.htm>

須川恒（ひさし）

# 大阪自然史フェスティバル2022における ブース展示

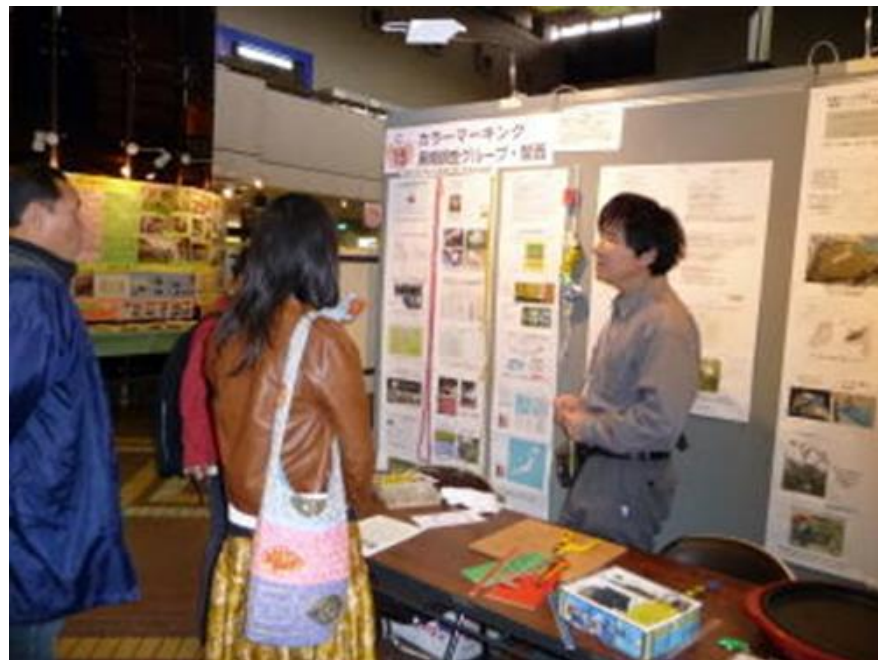
- ブース展示の経過とねらい
- 展示した内容の紹介
- 実際の運用と反応
- 自分なりの評価
- 見えて来た今後の課題

# ブース展示の経過とねらい

- 自然史フェスティバル(年によってバードフェス)は関西の自然系フェスとして全国的にも注目。秋の土日に大阪市立自然史博物館で開催。
- 鳥類標識調査がらみでは2009年からカラーマーキング(4回)、冠島のオオミズナギドリ調査(1回)、そして鳥類標識調査グループ・関西で(2018年、2019年)とブース展示。
- 2022年11月19日(土)20日(日)9:30~16:30に開催された。2日間で2万人弱が来訪した。
- ねらいは関西圏の自然好きの人にバンディングの普及・啓発+バンダーの交流。

# 2009年カラーマーキング鳥類調査グループ・関西としてブース展示開始(4回する)

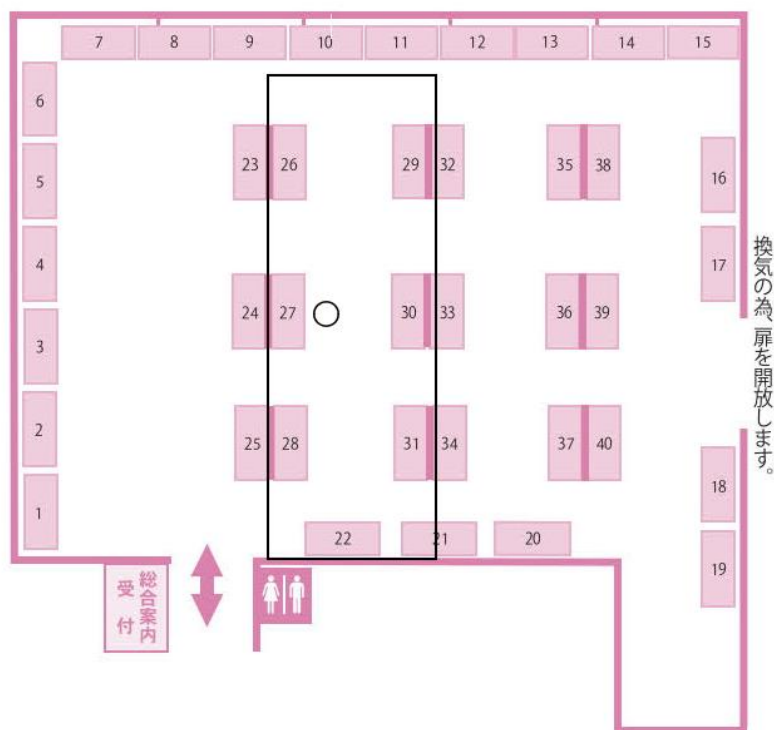
- 2004年から協会HP(普及啓発目的)カラーマーキングの部屋も開設
- 関西のネタ多い(ユリカモメ、カワウ、湖北ヒシクイ、コウノトリ等)
- 和田の鳥小屋(カラーリング確認情報収集)
- 人よせにホットプレートでリングの丸め作業
- 観察者と調査者をつなぐ面白さ
- 標識調査はまだ前面にだしてない(警戒して)



2009年の初ブース展示 机上には  
リングを丸めるためのホットプレート  
番号刻印手彫り用ルーターも  
左は東京から来た吉成才丈さん？

# 2022年A27周辺ブース

○鳥類標識調査グループ・関西  
 A ネイチャーホール  
 会場 花と緑と自然の情報センター2階



新型コロナウイルス感染症予防のため、扉を解放し換気を行います。  
 当日は、暖かい服装でご参加ください!

周辺に野鳥関係ブースが多い  
 野鳥長屋ともよばれる...

公益社団法人大阪自然環境保全協会	A22
池田・人と自然の会	A23
TEAM魚っしょい!	A24
きしわだ自然資料館・きしわだ自然友の会	A25
芥川倶楽部&あくあびあ芥川	右隣 A26
鳥類標識調査グループ・関西	○ A27
日本野鳥の会京都支部	左隣 A28
枚方いきもの調査会	A29
特定非営利活動法人日本バードレスキュー協会	A30
NPO法人共生の森	A31
伊丹市昆虫館	A32
南大阪昆虫同好会	A33
堺自然ふれあいの森	A34

協会員多い フェス主催者は和田岳  
 さん 協会副会長梶田学さん(A28)  
 村濱史郎さん(A30)



# A27 鳥類標識調査グループ・関西

- 展示ポスター
- PCプロジェクターの投射面→  
随時プレゼンに使う
- 人寄せグッズ、展示資料
- 無料配布資料



# 展示ポスター

**足跡からわかる 鳥たちのひみつ**

**鳥類標識調査で明らかになった鳥たちの生態**

**Backyard Bird Banding 裏庭バンディング**

**鳥類バンディングデータ(兵庫県川西市報告1-10)**

**鳥類バンディングデータ(兵庫県川西市報告1-10)**

鳥類バンディング調査の重要性、調査方法、調査結果の活用などについて詳しく説明しています。

## 京都府舞鶴市冠島のオオミズナギドリ調査と 高校生の主体的な学び

京都府立西舞鶴高等学校 本稿 聡仁

**オオミズナギドリ (Shearwater, Calonectris acuminata)**

オオミズナギドリの自然観察に関する調査結果を報告しています。調査期間、調査方法、調査結果のまとめ、考察、今後の課題などについて詳しく説明しています。

**調査結果のまとめ**

調査期間: 2022年10月22日(土) - 2022年11月11日(土)

調査方法: 目撃観察、音声録音、GPS記録

調査結果: 調査期間中にオオミズナギドリを10羽観察した。うち5羽は音声録音を行った。GPS記録から、調査地域を飛行するルートが確認された。

**考察**

調査結果から、オオミズナギドリは調査地域を定期的に飛行していることが確認された。これは、調査地域がオオミズナギドリの重要な生息地であることを示している。

**今後の課題**

調査期間を延長し、より多くのデータを収集すること。調査方法を改善し、より正確なデータを収集すること。

**謝辞**

本調査に際し、オオミズナギドリの調査技術について御指導いただいた須川博博、狩野清隆様、松本祥子様に感謝申し上げます。また、鳥類のフィールドワークや様々な分野に関する知識を御教授いただいた京都府鳥類調査研究会の皆様にも深く感謝申し上げます。

**引用文献**

Sugawa H(2006) 鳥島とオオミズナギドリ-生活史と標識調査- アラノ33 24-29 京都新聞 (2022年3月31日)

**最新カラーリング情報**

カムチャツカで青X1のユリカモメ

2022年10月22日にベネチア湖で青X1のユリカモメを撮影したElena Gorobetsさん(11月2日)

2021年3月の紅葉祭りで撮影した鳥類標識調査の成果を報告しています。

**世界湿地の日in湖北(オンライン)**

2022年2月6日(53分) 世界に発信

4人が参加したオンラインイベントの様子を報告しています。

**世界湿地の日2022から見たウクライナ**

世界湿地の日: ラムサール条約発足の2月2日前後に世界中で祝うイベント・情報共有のしかげある。 <https://www.worldwetlandsday.org/events>

鳥類標識調査の重要性、調査方法、調査結果の活用などについて詳しく説明しています。

**シシウカラガン物語**

鳥類標識調査のつながりでもできた国際交流がシシウカラガン復活への道を開いた! (第5巻以下に注目)

W 受買(買戻)代行のチーム-条約締結地企業、日本側を保護する会の山陽鳥類調査員が、この本を訳すと翻訳できます。

100年のシシウカラガン-復讐の歴史のスタート地点を日本側を保護するシシウカラガン大数量プロジェクト 2480 円送料別、送料別(送料別)

鳥類標識調査の重要性、調査方法、調査結果の活用などについて詳しく説明しています。

反省点 導入にはなかったが、よくばりすぎて伝わりにくい(説明が必要) → キャッチと大きな絵にしぼる必要がある



# 人寄せグッズ

- ・ 標識調査用道具
- ・ カラーリング(ユリカモメ、カワウ用)
- ・ 片無双網模型
- ・ オオミズナギドリ  
のぬいぐるみ
- ・ オオナギ足環番号  
体験箱
- ・ 回収記録フォル  
ダー(須川受領分)
- ・ 「シジュウカラガ  
ン物語」の本など





# 説明用資料

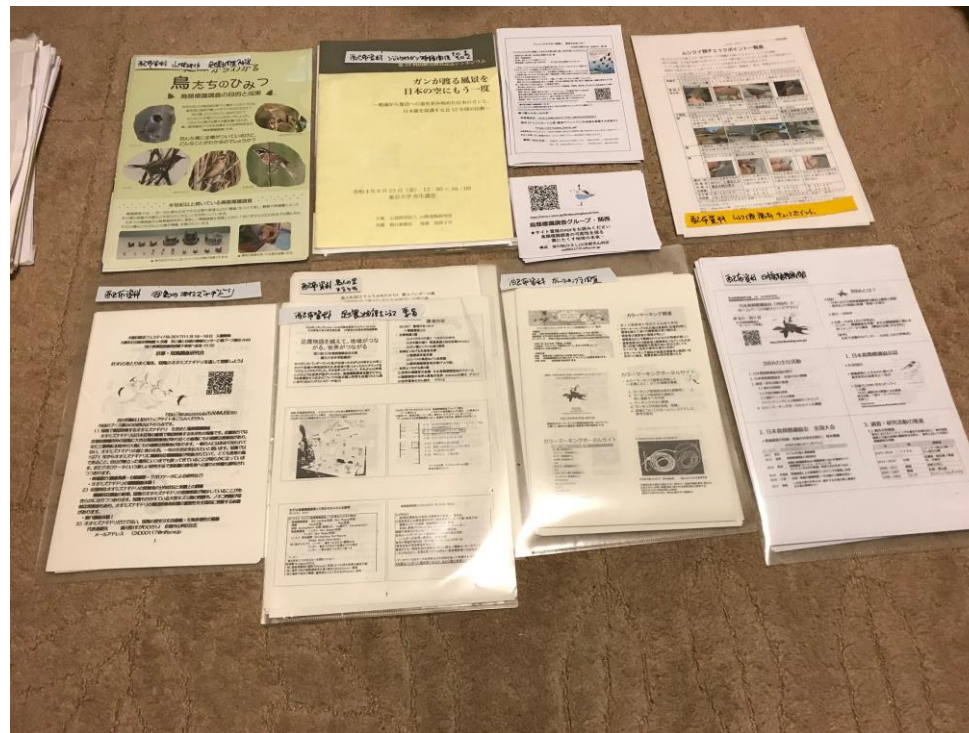
冠島調査関係 織田山ステーション関係 カラーマーキング関係 ツバメ関係  
アルラ雑誌関係 オリジナル記録 標識調査マニュアル 熊代さん調査資料



# 無料配布資料

なくなる順 ◎ > ○ > △

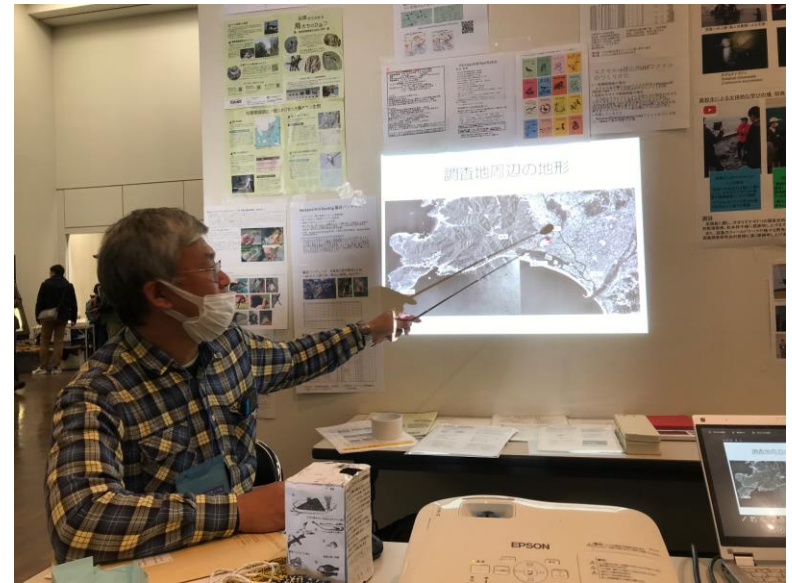
- ◎ 標識調査解説パンフ
- ◎ 山階芳麿賞講演要旨
- 熊代さん準備資料
- シジュウカラガン物語広報
- オオミズナギドリ生態
- △ 2018年講演時資料
- △ カラーマーキング解説
- △ 標識協会解説





# ブース滞在話題提供者

- 11月19日ブース設置  
須川恒・本藤聡仁
- 11月19日11：00～12：00 熊代直生  
和歌山県西山の標識調査ほか
- 11月19日13：00～14：00  
山根みどり アルラ誌紹介ほか
- 11月19日15：00～16：00 本藤聡仁ほか  
舞鶴市冠島オオミズナギドリ調査
- 11月20日11：00～12：00  
上田恵介 裏庭バンディングほか
- 11月20日16：30～ 撤収 荷物発送





# 実際の運用

- ブース滞在話題提供者

- つぎつぎあらわれる訪問者のタイプと対応

(1)熊代さんの資料にやってくるバーダー→裏庭バンディングにも関心

(2)カラーマーキングへの関心→リング見せる→協会HPマーキングの部屋を紹介

(3)オオナギグッズ+冠島体験希望者+過去の体験者→グッズやポスター説明(参加経験者による)

(4)シジュウカラガン物語関係→京都の鴨川にやってきたユリカモメ標識鳥が大切な役割との説明

(5)ブース全体の目的を理解して、鳥類標識調査全体に関心を持ちだす人もいる

→これがあれば標識調査の魅力が伝わるという本が欲しい！

# 自分なりの評価

- フェスにくる多くの人は今後自分が接したい世界を探している。関心も多様な分野や世代などにより、バンディングへの別資材にヒカレる、カラーマークされた観察者に協賛マナー調査に役立っている。冠島調査に役立っている。展示資料や説明はそれなりに立っていた。
- 過去の展示(2009年からのカラーマーキング、冠島、鳥類標識調査関西の展示)はそれなりに力となっている(継続の大切さ)。
- 来年の展示にどう今年の結果を活かすか いろんなアイデアがうまれた(後述)
- 関東とか他の地域でもこのようなブース展示の活動がはじまれば資料(ポスター展示、展示資料グッズ、配布資料)の共有とか情報交換が有益。考えたい人は、須川まはる(鳥の施設で常設展示は?)をしていて、場啓発で連絡を...。(鳥の情報も共有したい)→協会HPに普及啓発の部屋をつくりたい(2004年HP開催時からの目標)

# 見えて来た関西の今後の課題

- いずれも長期的(30~50年以上の)歴史(こだわり)を背景に連携と継続を模索(研究者との連携や若手の育成)
- 和歌山県西山他の熊代さんの動きの展開
- 50年以上の冠島のオオミズナギドリ標識調査の継続(国の天然記念物指定から2023年で100周年！)
- ツバメの渡りのプロジェクトの展開
- ユリカモメの渡りのプロジェクトの展開(シジュウカラガン物語(100年)へのからみもその一つ)
- カワウやカモ類も...
- 裏庭バンディングは裏庭バーディングとも連携
- テーマを掘ればいろいろつながって、全体として鳥類標識調査の可能性がもっと見えてきそう...



# ブース展示の経過とねらい

- 今回のブース展示にいたる経過とねらいは以下にまとめた(コロナで中止や制限の可能もあったので)。
- 須川恒(2022)「鳥類標識調査の可能性を探る  
一翼にたくす地球の未来ー」(山階のキャッチのぱくり...)
- ALULA65(2022年秋号):39－50. 鳥類標識調査グループ・関西のサイト冒頭にPDFファイルを置く
- 自然好きの一般の人はもちろん、**バンダーにも**「鳥類標識調査は潜在的に大きい可能性がある」ことを4点(IT化、ブース展示、サイト、講演動画)から紹介している



# 講演要旨 その1

大阪自然史フェスティバル2022におけるブース展示

須川恒(京都市山科区)

- 鳥類標識調査の活動において、普及啓発の目的で2009年から大阪自然史フェスティバル(年によってバードフェスティバル)の場でブース展示活動を行ってきた。団体名は多少変わっているが、2022年11月19日20日鳥類標識調査グループ・関西と名乗ってブース展示を行ったのでその報告をする。
- 経過とねらい

自然史フェスティバル(年によってバードフェス)は秋に2日間大阪市立自然史博物館で開催される。関西の自然系フェスとして全国的にも注目されている。2022年11月19日(土)20日(日)9:30~16:30に開催され、2日間で2万人弱が来訪した。

鳥類標識調査がらみではカラーマーキング調査グループ・関西(2009~2016年4回)、冠島調査研究会(2017年オオミズナギドリ標識調査)(1回)、鳥類標識調査グループ・関西(2018~19年2回)とブース展示をしてきたが、ここ2年はコロナで開催されていなかった。

ねらいは関西圏の自然好きの人にバンディングの普及・啓発をし、バンダー間の交流をはかることであつた。

- 展示した内容の紹介

ポスター展示物としては、鳥類標識調査の概要、インハンドによる識別ガイド、裏庭バンディング、カラーマーキング調査、ユリカモメからはじまったシジュウカラガン物語の紹介、冠島のオオミズナギドリ調査などを展示し、一部はPCプロジェクターの投射面としていくつかのプレゼンをした。

人寄せグッズとしてはカラーリング、片無双網模型、オオミズナギドリのぬいぐるみなどを置き、無料配布資料も何種類か準備して配布した。



# 講演要旨 その2

- 実際の運用と反応

一部の時間帯を決めてプレゼンをしてもらった。また、さまざまな関心でやってくる人は多様で、それぞれの対応が楽しかった。

- 自分なりの評価と課題

フェスにくる多くの人は今後自分が接したい世界を探している。関心の分野や世代などにより、バンディングへの関心も多様(例：バーダーインハンド識別資料にひかれる、カラーマークされた観察者には協会マーキングの部屋を紹介、鳥好きの中学生は将来冠島調査に参加したいと言う)。展示資料や説明はそれなりに役立った。

過去の展示はそれなりに力となっていて継続することの大切さが実感できた。

来年の展示にどう今年の結果を活かすか いろんなアイデアがうまれた。

関東とか他の地域でもこのようなブース展示の活動がはじまれば資料(ポスター展示、展示資料グッズ、配布資料)の共有とか情報交換が可能である。考えたい人は連絡されたい。

- なお、今回のブース展示にいたる経過とねらいは以下にもまとめているので読まれたい。

須川恒「鳥類標識調査の可能性を探る -一翼にたくす地球の未来-

ALULA65(2022年秋号) : 39-50. 以下のグループのサイトの冒頭に紹介。

<http://larus.c.ooco.jp/BirdbandingKansai.htm>